

奥山大使の UNRWA 学校訪問

2024年7月16日、奥山爾朗駐ヨルダン大使は、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）が運営するアンマン市内のスズハ学校を訪問し、UNRWA の活動や、日本政府が支援する UNRWA の夏期補習授業を視察しました。訪問中、奥山大使はオラフ・ベッカー UNRWA ヨルダン事務所長から最近の活動やプログラムについて説明を受けました。

奥山大使は今回の訪問を振り返り、ヨルダンを含む地域全体のパレスチナ難民に対し、非常に重要なサービスを提供する UNRWA の貢献を強調するとともに、現在の地域情勢に鑑み、パレスチナ難民のためのみならず、地域の安定のためにも UNRWA の役割が増していると述べました。

オラフ・ベッカー UNRWA ヨルダン事務所長からは、日本の支援に対する感謝の意に加え、この支援がヨルダンのパレスチナ難民に必要不可欠な教育、心理社会的支援や保護サービスを提供する UNRWA の能力強化に貢献していると述べられました。また、今回の訪問は、脆弱なコミュニティを支援する点において日本と UNRWA 間の重要なパートナーシップを表しており、夏期補習授業は、パレスチナ難民の生活を改善し、質の高い教育を受ける権利を確保するという、UNRWA のコミットメントの証しであると強調しました。

日本政府は、2024 年 4 月から 2025 年 3 月までの間に実施される「ヨルダンのパレスチナ難民に対する教育、心理社会的支援、保護に関する喫緊の人道支援」プロジェクトのために、UNRWA に対して 332 万ドルを拠出しており、脆弱な立場にあるパレスチナ難民に基本的なニーズを提供している他、青少年の教育や研修への支援も行っています。

